

# 金沢市木の文化都市推進計画（仮称）骨子案についての パブリックコメントでのご意見の概要と金沢市の考え方（回答）

募集期間：令和4年12月20日（火）～令和5年1月18日（水）

意見数：15件（5人）

提出方法：電子メール（3人）、窓口持参（2人）

No.	意見の概要	金沢市の考え方
○木の文化都市の推進全般について 2件		
1	金沢らしい特性を持った木の文化都市の創出に知恵を絞らなければならないと考えます。	金沢は、戦災や大きな災害を免れたことから、多様な木造建築や木工文化が残った数少ない都市であり、木の文化を継承する取組と、新たな木造建築などを創出する取組を同時に進める素地を有していることが本市の特性であると考えています。市民、事業者及び市が一体となって、金沢らしい木の文化都市の創出に向けた取組を進めてまいります。
2	計画期間が10年となっているが、「柳宗理記念デザイン研究所」でさえ5年かかるわけであるから、例えば2050年までの計画を若い人達を中心になって企画していただきたい。	「金沢市における木の文化都市の継承と創出の推進に関する条例」に基づく本計画の計画期間は10年ですが、各種施策を推進しながら社会情勢の変化に応じ、適宜見直しも行いながら、長期にわたり取組を進めてまいります。
○エリア別のまちづくり方針について 1件		
3	計画にある木の文化推進重点区域は防火地域であり、高層階が建ち並んでいる区域となっていることから耐火建築物の率が高いと思われます。 この様な条件で可能となる木質化、木造化をどのように設計すれば建設できるのか示していただく必要があるのではないのでしょうか。 また、既存の建物改修時に木質化出来るようにするための技術的な助言もお願いしたいです。	令和4年度事業で、木の文化推進重点区域（防火地域）において、4階建木造ビルの仮想設計を行っています。今後、これらを通じて得られた技術的な知見を基に、木造化に向けたさまざまな課題解決策や木質化の手法について発信してまいります。
○施策の方向性について 9件		
4	木造家屋の場合、専門の大工が少ないことや壁などの建築材料を取り入れにくいことから、高価になってしまふ。これらの問題を解決するために職人大学校などをさらに充実させると同時に建築材料の安価購入の方法も併せて検討いただきたい。	施策の方向性2（1）ア「木の文化を継承・創出する担い手を育成する取組」の中で、職人大学校等での木造建築に関わる人材の育成を引き続き行ってまいります。 また、建築資材価格については世界情勢の影響もあり高騰しておりますが、動向を注視してまいります。
5	施策の方向性2（1）イ「森を活かし、まちとつなぐ担い手を育成する」の「まちとつなぐ」が非常にわかりにくく、具体性を欠いた表現である。施策の方向性の2番目の項目メインとなる取組のはずで、もっとわかりやすく具体的な取組を記すべきです。	木に関わる仕事としては、建物や伝統工芸等の「継承に携わるもの」、また、新しい木造建築等を「創出していくもの」があります。さらに木材を供給する森林とこれらを活用するまちを結び「コーディネートするもの」も必要であり、これらを踏まえ「(森と)まちをつなぐ」という表現にしました。 計画本編では、具体的な取組内容を記載してまいります。
6	木造建築の減少を抑制するにあたり、歴史的建築物の保全は書かれているが、空き家の増加が減少に拍車をかけていることを考えると、施策の体系の中に金澤町家等の空き家対策が明記されるべきではないのだろうか。	施策の方向性3（1）「木の文化をつたえる建築物や空間を継承する」においても、金澤町家等の歴史的な建築物の減少を抑えることは課題ととらえております。 空き家対策と金澤町家の保全活用については、それぞれを対象とした計画が既に策定されていることから、本計画とも連携し、取り組みを進めてまいります。
7	施策の方向性3（1）「木の文化をつたえる建築物や空間を継承する」に関しては、どのようにして継承するかが重要と考えます。既にある歴史的建築物の活用方法として、金澤町家を飲食店など商業施設に改装されたものが多くあります。その殆どと言っていいほど外装だけの保全で、内部は利用しやすくするための土間空間にするなど原型を留めなくなってしまうと思います。 注意しなくてはいけないことは、住居という機能よりも店舗という機能は個別的で短命ということです。商業施設と寿命を同じにはなりません。一定のルールが必要です。	ご意見については、金澤町家の保全活用に関わることから、所管課と情報を共有し、今後の取組の参考にさせていただきます。
8	施策の方向性3（2）「民間施設などでの木の利用を促進する」に関して、既存建物のこの事業に沿った模様替えの推進が必要と考えます。また、屋外広告物等の街並み景観に大きく影響するエレメントにもスポットを当てるべきと考えます。	まちなみに木を取り入れることは、建築物の新築でのみ実現するものではなく、内外装の改修や模様替え、緑化などでも実現します。さらに、屋外広告物等の建築に付随する要素の木質化も木を感じさせる効果的な手法と考えております。
9	金沢市の林業及び製材業の実態は、近年の木材に求められる品質と量に対応できるとは思えないが、どのように改善や強化を図っていくのか。また、市外の事業者との連携などをどのように図っていくのか。 金沢市の森林や林業（製材等の業界を含めて）をどのようにしていきたいのか、骨子案では見えないので、計画本編ではある程度の将来展望を示してほしい。	ご指摘の内容については、木に関わる事業者らとの意見交換の中でも課題とされており、計画本編の中でこれらについて具体的に示したうえで、関係者が連携して取り組んでまいります。
10	現在主伐期を迎えている市産木材の利用を促進する活動は大変良いと思います。森林保有者の林業所得が低く、森林管理の意識も低いと聞いたことがあります。 まちで使用する木材が市内で供給できれば、森林所有者の所得向上に繋がりますし、市外への資金流出も抑えることが出来るので良いのではないのでしょうか。	施策の方向性4「森とまちの好循環をつくる」の具体的な取組（2）「森の恵みを積極的に活用し、森を循環的に更新する」の中で、ドローンやICTを活用したスマート林業の推進により、林業の収益力の向上を図ること、市産木材の需給体制を充実させていきます。
11	樹木は樹齢50年まではCO <sub>2</sub> を吸収し、それ以降は吸収スピードが落ちるそうです。積極的に50年以上の樹木を伐採し、まちで使用し、新たに植林をすることで少しでも地球温暖化防止に貢献できるのではないのでしょうか。 地球規模で考えると外国産の木材を利用するより、地元の木材を使用することで木材輸送に伴うCO <sub>2</sub> の削減に繋がると思います。 林業関係資料の中で伐採後の植樹率が全国的に約30%と読んだことがありますし、間伐を考えると使用した木の本数に対して3倍は植樹しないと将来の資源が枯渇すると聞いたことがありますので、伐採とセットで植樹もお願いしたいです。	「森づくり基本方針」では、本市森林の炭素固定総量を減少させないよう環境に配慮しながら、木材資源の有効活用を図ることとしています。また、人工林面積の7割近くが本格的な主伐期を迎えており、木をめぐる循環型社会の確立を目指すため、主伐・再造林による森林資源の循環利用を進めることは重要であると考えており、今後も検討してまいります。
12	骨子案では、産学官の連携などについて書かれているが、行政内部でも関係部署が多岐にわたっており、この取組が長期にわたって継続できるかどうかを鍵となることを考えると、どのような体制で統制を図り、目標設定を含めどのように進捗をコントロールしていくのかについて、計画本編で明記してほしい。	木の文化都市の取組は、関連する分野が幅広いことから、計画本編の施策の推進に向けた体制づくりの項目において、庁内での連携体制や庁内横断組織による推進体制について記載し、情報の共有を図りながら計画を推進してまいります。
○その他 3件		
13	木造建築は、防災上や耐久性に課題はないのか。コンクリート建造物と木造家屋との共存を防災上の観点や景観上の観点から調和を図るように金沢を観光客目線でも観察していただきたい。	現在の法令に基づき建築する上では、特に木造建築が防災上、耐久性上問題があるものではありません。景観上の調和を図ることについては、これまでの景観政策をふまえ、金沢のまちなみと調和する建築物を誘導してまいります。
14	木造建築を維持していくためには、メンテナンス経費がかかることは覚悟しなければならない。そのために「木の文化都市基金制度」を発足し、毎年のメンテナンスに計上していくことが必要である。	木造建築のメンテナンスは重要だと考えており、いただいたご意見を参考に、木の文化の継承と発展に向けて取り組んでいきます。
15	都市計画課の職員を海外に短期派遣して、地域性をどのように保持しているかを体験させるようにする。ヨーロッパの金沢市規模の都市の歴史や地域の個性の取組を勉強したうえで、短期滞在型の留学で若手養成を行うことによって、風情や人情までも体験でき、それが今後の施策に大いに影響してくるものと期待できる。	いただいたご意見を参考に、木の文化都市・金沢の実現に向けて取り組んでいきます。